

# ときめき人

Tokimeki bito



## 「あそびは 子ども達の 社会勉強です」

東和町・錦織5区

### 斗雅 潤さん

とが・じゅん  
(本名 千葉 淳さん)  
1965年生まれ 血液型/O型

(左)黄色のつなぎを着て目立つ格好をするのも、活動中に存在を知らせ、子どもたちを安心させるため。

(右)イベント会社で働いていた経験から大道芸にも精通。自身でピエロを演じることも。



「昔は地域にガキ大将がいて、幼い子はガキ大将を慕い、ガキ大将は年下の子を守るといふ子どもながらの縦社会がありました。今は少子化で大勢で遊ぶことが少なくなりましたが、昔のように子どもたちが集まって、自然に社会勉強ができる場所を作りたかったんです」と熱く話す。

もともと児童福祉の道に進みたかった斗雅さん。20代後半に栗原市にある国立花山青少年自然の家で開催されていた、子ども会などの引率者を育成する講習会に通った。講習会では、活動プログラムの企画や指導方法などを学び、現在は「青少年のためのあそびの探検隊」の代表を務めている。

あそびの探検隊は、遊びの中からルールとマナーを子どもたちに伝えようと、2009年に活動

を始めた。東日本大震災が発生した年、初めての合宿を開催。サバイバルをテーマに、空き缶で米を炊いたり、段ボールで寝たりしながら、災害時の生きる手段を子どもたちに伝えた。

活動は自主性を重視し、指示はしない。大人が答えを与えるのではなく、子どもたちで見つけ出してもらうためだ。前年にあそびの探検隊に参加した子が、翌年には率先して周りの子に指示している姿を見ると、成長を感じてうれしくなるという。

「活動に参加して、一晩でも団体生活を体験すると、子どもたちは確実に成長するんです。一人でも多くの子どもの参加してもらい、自分が学んできた経験をたくさん伝えていきたいですね」。斗雅さんと子どもたちの探検はこれからも続く。

## 編集後記

▼今回は中総体の取材。取材をしていると、自分が部活をしていた頃を思い出します。バスケ部でしたが、最後までレギュラーになることはできず、もつと練習していたら後悔した記憶があります。今の子どもたちには悔いのないように、全力で部活に打ち込んでほしいと思います。(三浦)

▼外で写真を撮りたいと思う取材の日は、決まって晴れてくれる今年の梅雨。天気が味方してくれているような気がして、うれしくなります。もうすぐ梅雨明け。昨年は梅雨明け後も曇りや雨の日が多く、夏を満喫できなかったため、今年は夏らしい日を期待しています。(小野寺)

▼日本中が沸いたロシアワールドカップが終了。残念ながらベスト8へ進出することはできませんでしたが、強豪国相手でも弱気にならずに最後まで戦う姿に感動しました。仕事や子育てなどで壁に当たることがありますが、私も前を向いて頑張ります。(高橋)



### 登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)  
<https://mail.cous.jp/tomemaki/>

